

**宮私幼 PTA だより**

第 78 号

( 会 員 )  
 行 者 連 合 会  
 T A 者 員  
 P 集 委  
 編 報  
 発 行 者  
 宮 幼 行 者 連 合 会  
 ( 会 長 ) 編 報 委 員 会  
 仙 台 市 青 葉 区 国 分 町 三 丁 目 6-12 佐 正 第 二 ビ ル 6 F  
 電 話 (022) 263-7040 番



「東日本震災」を教訓に教育環境の  
充実と復興へ心ひとつに頑張ろう

会長 渥美 巖

三月十一日午後二時四十六分、マグニチュード九・〇の超巨大地震と高さ十メートルを超える大津波により、本県沿岸部は壊滅的な状況に陥りました。

県内の死者・行方不明者は約一万二千人、全半壊の住家は十四万棟、基幹産業である農業・漁業をはじめ製造業に至るまで、甚大なる被害が出ております。死者・行方不明者の中で、私立幼稚園児六十一名、公立幼稚園児九名、小学生百八十六名、中学生七十五名、私立幼稚園教員三名、公立学校教員十九名の尊い命が失われています。又、両親を亡くした震災孤児は百十七名、片親を亡くした遺児は七百十一名に及んでいます。お亡くなりの方々に心から哀悼の誠を捧げるものであります。

今回の震災で、市や町が指定した避難所や避難路において被災し、亡くなっているケースがありまして、火災や大雨洪水・台風・地震津波等災害の種類によって、避難

所は使い分け、特に津波警報が出た場合、沿岸部の避難所は絶対避けるべきです。市や町でも今回の教訓を生かし、避難所指定を見直すべきと思います。

学校等においても避難マニユアルを複数用意し、災害の種類に合わせ最適なものを選択すべきと思いますし、子供達の家族への引き渡し、警報が解除されない中で、自宅が学校より安全な場所かも知れぬ、検討すべきと思います。

被災した子供達の心のケアが必要であり体制の構築と、被災した園舎の復旧が急がれております。公立と比較すると国の私立幼稚園への支援は低く、園舎の災害復旧でも国庫補助率等の改善を求め運動要望活動を行って参ります。

今回の災害は、過去に例のない甚大なものであり、国や県の支援が不可欠であります。更なる教育環境の充実と復興へ、心ひとつに要望し頑張つて参ります。皆様のご協力お願い致します。

平成二十三年度役員名簿

- 会長 渥美 巖 矢本はなぶさP  
 副会長 中島 源陽(研)いわでやまP  
 稲富 将夫(広)矢本はなぶさT  
 横澤 行夫(広)お人形社T  
 櫻井多恵子(研)塩釜聖光P  
 監事◎尾花 耿二(研)純 心 T  
 上ノ町幸恵(研)成田中央P  
 津田 晃美(広)ミネ P  
 横澤 行夫 お人形社第二P  
 事務局長 小野 暢彦 清水 T  
 事務次長 寺澤 正志 八幡花園P  
 常任委員長 岩山 伸次(体)東 盛 P  
 委員◎岩山 恵美(広)鶴が丘 P  
 菅原 彰(研)すがわらT  
 佐々木拓真(研)三ノ丸P  
 横澤 健史(研)お人形社T  
 相澤 朱美(研)東 盛 P  
 篠田 麻美(研) " P  
 ◎石田 由佳(広)ふくむろP  
 ◎氏家 圭子(広) " P  
 遠藤 陽子(広)ますみ P  
 大友 里美(広) " P  
 齋藤 貴仁(広)爺爺トリッP  
 畠山ひで子(広)九 条 T  
 小久保達之佑(広)登 米 T  
 五島 愛(広) " P  
 早坂 健一(研)純 心 P  
 藤岡 仁志(広)小 鳩 P  
 木村 健一(広)ひばり P  
 遊佐 久雄(研)塩釜聖光T  
 佐藤 宏郎(研)なとり T  
 佐藤 友美(研) " P  
 ◎佐藤 成賢(広)ミネ T  
 奥野 郁子(研)成田中央T  
 金田 正志 お人形社第二P  
 中野 幸男 宮城学院附属P  
 菊地 文博 東 岡 P

- ◎各部会部長 ◎各部会副部長  
 (研) 研修部 (体) 体育部  
 (広) 広報部

宮私幼 P T A

総会を終えて

副会長 中島 源陽  
 いわでやま幼 P



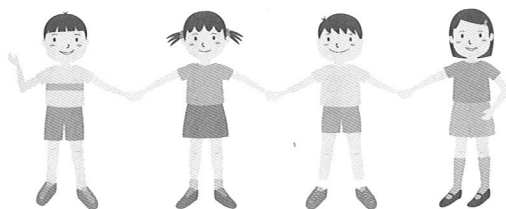
六月三十日、平成二十三年度宮私幼 P T A

総会が仙台国際センターを会場に開催されました。今年は特に三月十一日発生の東日本大震災によって幼稚園関係の方も尊い命を失ったことにより、開会冒頭にご冥福を祈る黙祷を捧げました。審議においては、前年度事業・決算報告及び今年度計画・予算等の全ての議案を可決いただきました。また、役員改選も行われ、再選となる渥美巖会長をはじめ、役員も承認頂きました。

幼稚園に関わる私たちにとって今回の震災をまだまだ受け止め切れてないのかもしれないが、改めて命の尊さ、自然は人間の想像を超えるということ、食べ物の大切さ、エネルギーの不可欠さ、そして、人として誰かと繋がっているということの安心等々、本当に多くのことを強く再認識させられました。これまで、当たり前と

思っていた日常や普段の生活が、実は人間が全く制御できない、自然の中にあつてそして多くの「思いやり」や「つながり」の上に成り立っているということなのだと思えます。

これから子どもたちが成長していく中で、今回体験したこと、感じたこと、学んだことが生きる土台として、しっかりと刻み込まれるよう、私たち P T A の役割は益々大きくなりました。



宮城県私立幼稚園  
教育振興大会

〈日時〉

平成二十三年十月十三日(木)  
 午前十時半～十二時半

〈会場〉

仙台市民会館大ホール

平成23年度事業計画

今年度の目標

- ◇すべての子どもの為に、よい環境をつくろう。
- ◇よい親、よい教師となる為の研修を深めよう。
- ◇保護者の負担軽減の為、さらに努力しよう。

宮私幼PTA

期 日	内 容	会 場
23年6月3日	前年度役員会	宮城県議会会議室
6月30日	平成23年度総会	仙台国際センター会議室
7月11日	第1回役員会	宮城県議会会議室
9月22日	第2回役員会	
10月1日	宮私幼PTAだより発行(第78号)	
中 止	第37回バレーボール大会	グランディ21(利府)
10月13日	宮城県私立幼稚園教育振興大会 第40回研修大会 講演「やる気を育てる魔法の言葉」	仙台市民会館大ホール
12月1日	全日本私立幼稚園PTA全国大会	東 京
2月 日	東北地区私幼PTA連絡会議	
3月1日	宮私幼PTAだより発行(第79号)	
時期未定	地区研修会(2ヶ所)	
"	知事陳情	
随 時	各部会(研修部・体育部・広報部)	
"	常任委員会	

※宮私幼PTAホームページを作成しました。(事業計画、あゆみ、会報等)  
 ・宮城県私立幼稚園連合会(<http://www.miyashiyoor.jp>)よりリンクする。  
 ・宮城県私立幼稚園PTA連合会で検索する。

平成23年度予算

宮私幼PTA

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
1. 会 費	1,944,000	1,960,000	△16,000	80円×24,300名
2. 補 助 金	300,000	300,000	0	宮私幼より、全日私幼Pより
3. 負 担 金	0	600,000	△600,000	バレーボール大会参加費
4. 雑 収 入	1,000	40,000	△39,000	預金利子、広告協賛
5. 繰 越 金	250,763	192,292	58,471	前年度より
合 計	2,495,763	3,092,292	△596,529	
1. 事 務 費	170,000	150,000	20,000	
(1)消耗品費	10,000	10,000	0	事務用品
(2)通 信 費	20,000	20,000	0	はがき、切手
(3)印 刷 費	80,000	60,000	20,000	総会資料
(4)事 務 所 費	60,000	60,000	0	宮私幼へ
2. 事 業 費	1,130,000	1,830,000	△700,000	
(1)研 修 費	500,000	500,000	0	研修大会、地区研修
(2)保 体 費	0	700,000	△700,000	
(3)会 報 費	500,000	500,000	0	会報発行
(4)渉 外 費	130,000	130,000	0	全国大会参加補助
3. 会 議 費	170,000	120,000	50,000	
(1)総 会 費	70,000	20,000	50,000	会場費
(2)役 員 会 費	90,000	90,000	0	会場費、食料費
(3)常 任 委 員 会 費	10,000	10,000	0	
4. 旅 費	150,000	150,000	0	役員交通費
5. 分 担 金	729,000	750,000	△21,000	全日私幼PTAへ(30円×園児数)
6. 雑 費	1,000	1,000	0	振込料
7. 予 備 費	145,763	91,292	54,471	
合 計	2,495,763	3,092,292	△596,529	

会 員 の こ と ば

『輝く宝』

ひばり幼稚園P

木村 健一



震災後、  
変わりを果て、  
た石巻を見て、  
この地で子供達を

を育てていけるのか不安になりました。しかし、三人(小二・年長・二歳児)の子供達のいつもの笑顔が気持ちを支えてくれたと思います。

今回の震災では助けられなかった命がたくさんあります。同世代の子を持つ親として：ただただ胸が苦しく痛みます。子供達との生活が当り前の事とは思わず、「輝く子供たち」の姿はもつとあるべきだった事を、子育てを通して、絶対に忘れてはいけなないと、強く強く思っています。

幼稚園の先生方も、家庭に戻れば父・母・娘・息子であり、それぞれに色々な悲しい思いを胸に秘めていらつしやるのに、子供たちの事を一番に考え、こんなにも早く幼稚園の生活をスタートして頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。先生方と保護者の方々が協力して『輝く宝』である子供達を育てていきたいと思っております。

自分でみつめて

登米幼稚園P

五島 愛



三人の子供達と共に登米幼稚園にお世話になつて九年

目。長男は六年生、長女は三年生になり、そして今次女が幼稚園最後の一年を過ごしています。

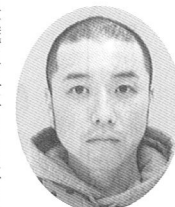
子供達には自分のやりたい事を自身で見つけて頑張ってもらいたいと思つてきました。長男はサッカーと出会い、スポーツの楽しさと同時に勝つ喜び、負ける悔しさを知りました。長女は今年の夏休みから念願だった犬を飼いました。私が面倒をみると言った自分の言動に、責任を持つ事を学んでいる真つ只中です。

そして、次女も来年は一年生。まだまだ子供と思つていますが、きつとこの子も自分のやりたい事に会おうでしょう。私はその時がきたら、精一杯応援してあげたいと思います。今しか体験出来ない事、育つてゆく気持ちを無形財産として大切に残してあげようと思つています。

「役員として得たもの」

小鳩幼稚園P

藤岡 仁志



小鳩幼稚園に長女が入園して三年目。私の父母の会

長職は二年目となります。娘も自分も、先生方や保護者の皆様を支えられ成長してきたのだと感じ、親子共々感謝しています。

私は役員として様々な活動に参加させていただき、園児やたくさん保護者の方と一緒に楽しい時間を過ごしてきました。多少の苦労もありましたが、それ以上に得るものも多く、素晴らしい経験多くの仲間と出会うことができました。あと少しの幼稚園生活ですが、会員の皆さんと園児たちのお役に立てるよう、微力ながら頑張りますので、宜しく願います。

あ と が き



「宮私幼PTAだより」第78号をお届けいたします。ご執筆をいただきました皆さまに厚く御礼を申し上げます。あ と が き、といたします。